50th Anniversary

国際演劇年鑑 2023

Theatre Yearbook 2023

Theatre Abroad

世界の舞台芸術を知る

CHINA — SOUTH KOREA — USA — UK — GERMANY — FRANCE —
ITALY — SPAIN — FINLAND — LITHUANIA — UKRAINE — RUSSIA

公益社団法人 国際演劇協会日本センター
ITI / UNESCO

50th Anniversary

国際演劇年鑑 2023

Theatre Yearbook 2023

Theatre Abroad

世界の舞台芸術を知る

International Theatre Institute
World Organization for the Performing Arts

Foreword
はじめに

公益社団法人国際演劇協会日本センターは、ユネスコ（国連教育科学文化機関）傘下のNGOであり、世界約80の国や地域のナショナル・センター、舞台芸術関連の職能団体とつながるネットワーク「International Theatre Institute（ＩＴＩ）」の一員です。

ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであり、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と書かれています。また、当センターの定款第3条には、その目的を「ユネスコ憲章の趣旨に基づき、各国相互の理解を深め、広く演劇舞踊の創造と交流を促進し、我が国の文化の発展と平和の実現に寄与することを目的とする」と定めています。

当センターは、1972年以来、日本と海外双方の演劇状況を調査した『国際演劇年鑑』（Theatre Yearbook）を継続して発行し、1997年からは2分冊として、「Theatre in Japan」（英語版）を海外の読者に向けて、「Theatre Abroad」（日本語版）を日本の読者に向けて企画・編集しています。平成23（2011）年度からは、文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として委託を受けて実施し、さらに、2014年からはオンラインで公開をしています。

また、同事業において、国際的な演劇交流促進のための調査・研究活動として、世界の優れた戯曲を紹介するリーディング公演を 2009年以来継続しています。今年度は「紛争地域から生まれた演劇」シリーズの14回目（14年目）として、ウクライナの作家による作品を取り上げました。残念なことにコロナ感染者が出たためリーディングは中止としましたが、日本初訳となる戯曲は当年鑑と同時刊行します。

新型コロナ感染症のパンデミックが3年目に入ったこの1年、いまだ流行に波があるとはいえ、世界が回復に向かおうとしている兆しもみえます。一方、ロシアのウクライナに対する攻撃は続いており、グローバル・サウスとよばれる新たな勢力を背景に、世界は混沌としてきました。

21世紀、この不安な時代に舞台芸術はなにができるのか―― 舞台人にとって、本質的な問を自らに問う1年になったのではないでしょうか。今年の『国際演劇年鑑』には、この問について、世界の舞台人の模索が多く寄せられました。

当センターは、舞台芸術を通して世界と日本がつながり、文化の発展と平和の実現を図るため、当年鑑を活動の基盤として、広く活用していただくことを願っています。

今後とも、皆様からのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月27日
ワールド・シアター・デイを記念して

公益社団法人国際演劇協会（ITI/UNESCO）日本センター
会長 永井多恵子

目　次

007　**ワールド・シアター・デイ メッセージ**　サミーハ・アユーブ

世界の舞台芸術を知る 2021/22

アジア・アフリカ

016　**中国**　「疫病時代」の中国演劇回顧――前に進むしかない旅の道のり／奚（シー） 牧涼（ムーリャン）

025　**韓国**　回復と成長／李（イ） 星坤（ソンゴン）

南北アメリカ・オセアニア

032　**アメリカ**　演劇界の再編へ／外岡 尚美

ヨーロッパ

040　**イギリス**　他者化の暴力――racism（人種差別）, genderism（性差別）, ablism（障碍者差別）／本橋 哲也

048　**ドイツ**　過酷な時代を反映し、解決策を探る演劇／エーファ・ベーレント

058　**フランス**　コロナ禍からウクライナ戦争、エネルギー危機へ　試練が続く演劇界／藤井 慎太郎

066　**イタリア**　困難の中で発揮されたクリエイティビティ／ヴェリア・パパ

073　**スペイン**　簡素な舞台で言葉、リズム、沈黙が織りなす人間模様／岡本 淳子

080　**フィンランド**　先行きが見えない中、もとの日常へ／リンネア・スタラ

087　**リトアニア**　ディストピアの時代／クリスティナ・ステイブリーテ

094　**ロシア**　沈黙の中の演劇／篠崎 直也

シアター・トピックス 2022

戦時下で舞台をつくるということ――ウクライナの3劇場ディレクターインタビュー／
聞き手:マリーナ・コテレネツ　102

祖国を離れて創作を続ける――演出家ティモフェイ・クリャービン インタビュー／
聞き手:内田 健介　124

復帰50年に振り返る 激動の沖縄の歴史映す「沖縄芝居」、その豊穣の世界／
細井 尚子、金城 真次、瀬名波 孝子、垣花 理恵子　135

ITI日本センター草創期の貴重資料発掘からわかったこと
――『国際演劇年鑑』創刊50周年（2023）を入り口として／曽田 修司　157

特集　紛争地域から生まれた演劇 14

〈演出ノート〉「知っていること」を疑い「割り切れなさ」を伝える／生田 みゆき　168

日本の舞台芸術を知る 2022

能・狂言　「古さ」の中に見いだす「新しさ」／小田 幸子　174

歌舞伎　市川團十郎襲名と新世代の活躍／矢内 賢二　182

文楽　コロナ禍のなか、3人の切場語り誕生　文楽の未来開く若手らの奮闘／亀岡 典子　188

ミュージカル　コロナ禍に抗って／萩尾 瞳　194

現代演劇　復帰50年の沖縄、日本と世界を考えて／山口 宏子　200

児童青少年演劇　コロナ禍を超えて復活した夏のフェスティバル／太田 昭　208

日本舞踊　2022年の日本舞踊―新しい日本舞踊家の波が見えた―／平野 英俊　215

バレエ　「ウィズ・コロナ」、そしてウクライナへの想い／うらわ まこと　221

コンテンポラリーダンス・舞踏　現実を捉え直す目、コロナ禍で拡充するダンス環境／堤 広志　229

テレビドラマ　コロナ禍の向こう側へのまなざし／太田 省一　239

編集後記　新野 守広　245

世界の国際演劇協会センター　250

《凡例》

- 「世界の舞台芸術を知る」では、主に前年の公演シーズン（10月～翌年9月）の舞台芸術の動向について報告します。
- 「日本の舞台芸術を知る」「シアター・トピックス」では、前年の1月から12月の舞台芸術の動向について報告します。
- 姓名の表記順については、個人の属する国・地域の慣習に従って記載しています。ただし、著者プロフィールでの姓名表記は、姓を持たない個人の場合などを除いて、〈姓，名〉としています。
- 外国語の人名、作品名、劇場名などのあとには、原則として、丸括弧で原語の表記を付記しています。ただし、原語がキリル文字やアラビア文字、漢字圏以外のアジア諸国の文字などの場合は、便宜上、ラテンアルファベットに翻字して記載しています。
- 外国語の人名、作品名、劇場名などの表記は、それぞれのことばの日本語化の程度を考慮しつつ、慣用の形を尊重しています。慣用が熟していないものは、新聞社・放送局等の用字用語集等に使用されている規則を参考に、原音を日本語音に置き換えています。
- 作品名、劇場名などの固有名詞については、オフィシャルな和訳／英訳がある場合はそれを採用し、そうでない場合は新規訳出したものを掲載しています。
- 漢字圏の国と地域の場合、作品名、劇場名などの和名のあとに、丸括弧で原語の表記を付記するとともに、オフィシャルな英訳がある場合は、（原語表記／英語表記）と記載しています。
- 韓国の名前など固有名詞の表記については、近年、ハングルのみの表記で漢字を使用しない例が増加する傾向にあるため、漢字表記が存在する場合は漢字にカタカナでルビをふり、漢字表記が存在しない場合はカタカナでの表記としています。

3.27
World Theatre Day
ワールド・シアター・デイ

世界の舞台人が舞台芸術を通して平和を願い、
演劇への思いを共有する日《ワールド・シアター・デイ》は、
国際演劇協会（ＩＴＩ）フィンランドセンターの提案から出発し、
１９６１年にＩＴＩ本部によって創設され、２０２２年に60周年を迎えます。
３月27日は、ＩＴＩが１９５４年から主催し、
歌舞伎や京劇、ベルリナー・アンサンブルやモスクワ芸術座など、
世界各国の演劇を紹介してきた国際的な舞台芸術フェスティバルの先駆け
「シアター・オブ・ネイションズ」（Théâtre des Nations=諸国民演劇祭）の
１９６２年開催初日に当たります。
以来、毎年 3月27日には、各地のＩＴＩナショナル・センターをはじめとする
世界の舞台芸術関連団体によって記念イベントが開催され、
多くの演劇活動が行われています。
その中心になるものの一つがパリのユネスコ本部でとり行われるセレモニーで、
１９６２年のジャン・コクトーをはじめ、アーサー・ミラー、
ローレンス・オリヴィエ、ピーター・ブルック、ウジェーヌ・イヨネスコ、
アリアーヌ・ムヌーシュキン、ジョン・マルコヴィッチ、ダリオ・フォなど、
ＩＴＩによって招聘された舞台人が、世界に向けてメッセージを発信しています。

World Theatre Day Message
ワールド・シアター・デイ メッセージ

舞台芸術に携わる世界中の友人たちへ

この「ワールド・シアター・デイ」という日にこうしてお話しできることを、このうえなく幸せに思っています。舞台芸術に関わる人もそうでない人も、こんにちの世界を生きる誰もが、ストレスや、心を砕かれるような想いに絶えずさらされています。私のからだじゅうの細胞は、この苦しみの重さに戦慄(わなな)いています。この世界は紛争、戦争、自然災害によって安定を保つことができず、物質的にも精神的にも大きな痛手を受けています。

私は、この世界がまるごと離れ小島になってしまったように感じています。あるいは、霧に覆われた、地平線の見えない海で、水先案内人もなく目印も見えず、どこか安全な港に辿り着くことをひたすらに願いながら、航海をやめることもできずに荒れ狂う波の渦の中にいる、そんな船にも似ている気がします。そう感じながら、今日はみなさんに語りかけているのです。

こんにちほど、人々や世界が互いに近く繋がっていながら、同時に互いを遠く、わかりあえないと感じることがあったでしょうか。このパラドクスこそ現代社会が私たちに突きつけてきた課題です。私たちは皆、情報交換やコミュニケーションが、地図上の境界線を超えて行われることを、ふだんの生活の中でよく見て知っています。しかし紛争や緊張はこのような

Samiha Ayoub

サミーハ・アユーブ（エジプト）

論理的な認識をいとも簡単に飛び越えて、繋がっているように見えるものの中に決定的な分断を生み出し、私たちを最も純粋な人間の本質から遠く引き離しています。

舞台芸術というのは元来、真の人間性（ヒューマニティ）、あるいは人が生きることに基づいて、人間が行うものです。偉大なる先駆者、コンスタンチン・スタニスラフスキーはこう言いました。「足に泥をつけたまま劇場に来てはいけない。ほこりや泥は外で落としてくること。服についた些細な悩みや争い、困りごとも外で落としてきなさい。あなたの人生を破滅させるものはすべて、あなたの芸術から取り払うこと――扉の外で」(*)と。舞台に上がるとき、私たち俳優が受け持つのは、ただひとりの人物の、ひとつの人生、ひとつの命だけのはずです。ところがその人物には特別な能力があって、舞台上の俳優から飛び立ち、分裂して、他の人たちの人生、命の中に溶け込んで新たに生きだします。私たちは人生という名の花の種を蒔（ま）き、命を与え、繁らせ、その香りを世界の人々に届けているのです。

作家でも演出家でも俳優でも、舞台美術家でも詩人でも音楽家でもコレオグラファーでもテクニカルスタッフでも……関わりかたはどうであれ、舞台作品を作ることは、だれかの人生を作るということです。だれか、その作品が作りはじめられるまでは存在しなかっただれかの人生を作ること。その人

物には、優しくいたわる手と、愛情豊かに抱きしめる胸と、共感する心、信念を持って生き抜くための冷静な精神が備わっていなければなりません。

私は、自分たちが舞台の上でしているのは生きることそのもので、無から命を産み出すことだと思っています。寒く暗い夜を照らし、温もりを与える残り火のように。これは決して大げさな言い方ではありません。私たちがしているのは、魂に象(かたち)と命、生きる力、生きる意味を宿らせること。私たちがしているのは、理解のための道筋をつけること。私たちがしているのは、芸術という灯火(ともしび)を持って無知や過激思想の暗闇に立ち向かうこと。私たちがこの世界を生き抜くという教義(ドクトリン)を胸に抱けば、命の種を世界に蒔けるはずです。そのために私たちは全力を注いでいます。真善美の価値を守り、人々が自分の生きている意味を信じられるようにするのだ。この高い志を実現するため、時間も血も汗も涙も心も捧げています。

今日ここでお話しするのは、ワールド・シアター・デイを機にあらゆる芸術の父である「舞台芸術」を讃えるためだけではありません。皆さんとともに立ち上がり、手に手をとって、肩を組み、声高らかに私たちの言葉を世界へ向けて発信したいのです。舞台に立つときのように。善い心よ目覚めよ、失くしてしまった人間の本質を自分のなかに探せ、と世界に向かって呼びかけましょう。自由や寛容、愛、慰め、優しさ、他者を受けいれる心を探して、

野蛮な行いや、人種差別（レイシズム）、偏見、過激思想のイメージを消していこうと呼びかけましょう。人間は、幾千年もの間、この空のもと、この地上で歩んできました。そして歩みは続きます。戦争や血で血を洗う紛争の日々を抜けて、その足の汚れを劇場の扉の外で落とそうと呼びかけるのです。真の人間性を取り戻す日が来たら、私たちは人間であることに誇りを持ち、人間性を分け合った兄弟姉妹として結ばれるでしょう。

演劇人はたいまつで暗い世界を照らす者です。私たちははるか昔からずっと、トーチリレーを続けてきました。俳優がはじめて舞台に現れたときから、醜く血に染まった非人間的な世界に、私たちは美しく純粋で人間的なものをもって向き合ってきたのです。命の種を蒔けるのは、私たちをおいて他にいません。ひとつの世界とひとつの人間性のために、ともに種を蒔きましょう。

サミーハ・アユーブ

＊コンスタンチン・スタニスラフスキー著、堀江新二、岩田貴、安達紀子＝訳『俳優の仕事 第二部――俳優教育システム』（未來社、2008年）等で同様の言及について読むことができる。

Samiha Ayoub
サミーハ・アユーブ

俳優。シュブラ生まれ。1953年に演劇高等学校（Higher Institute Dramatic Arts）を卒業。在学中は劇作家、ザキー・トゥライマート（Zaki Tulaimat）に師事した。これまでに関わった作品は『ラービア・アダウィーヤ（Raba'a Al-Adawiya）』『Sikkat Al-Salama（英題：The Right Way）』『Blood on the Curtains of the Kaaba』『アガメムノン』『コーカサスの白墨の輪』など、およそ170作品にのぼる。舞台での活動が中心だが、映画やテレビといった映像作品でも活躍している。代表作に『The Land of Hypocrisy』『The Dawn of Isram』『With Happiness』『Among the Ruins』（以上、映画）『Stray Light』『Time for Roses』『Amira in Abdeen』『Al-Masrawiya』（以上テレビ）などがある。ナセル、サダトらエジプトの歴代大統領やシリアの前大統領ハーフィズ・アル＝アサド、フランスの元大統領ジスカール・デスタンからの評価も高かった。

（翻訳：後藤絢子）

〈ワールド・シアター・デイメッセージ歴代発信者〉

1962	ジャン・コクトー	(詩人・小説家・劇作家／フランス)
1963	アーサー・ミラー	(劇作家／アメリカ)
1964	ローレンス・オリヴィエ	(俳優／イギリス)
1964	ジャン＝ルイ・バロー	(俳優・演出家／フランス)
1965	匿名のメッセージ	
1966	ルネ・マウ	(ユネスコ第5代事務局長／フランス)
1967	ヘレーネ・ヴァイゲル	(俳優・ベルリナー・アンサンブル創立者／東ドイツ)
1968	ミゲル・アンヘル・アストゥリアス	(小説家／グアテマラ)
1969	ピーター・ブルック	(演出家／イギリス)
1970	ドミートリイ・ショスタコーヴィチ	(作曲家／ソビエト連邦)
1971	パブロ・ネルーダ	(詩人／チリ)
1972	モーリス・ベジャール	(振付家／フランス)
1973	ルキノ・ヴィスコンティ	(映画監督／イタリア)
1974	リチャード・バートン	(俳優／イギリス)
1975	エレン・スチュワート	(ラ・ママ実験劇場創立者・プロデューサー／アメリカ)
1976	ウジェーヌ・イヨネスコ	(劇作家／フランス)
1977	ラドゥ・ベリガン	(俳優／ルーマニア)
1978	ナショナル・センターからのメッセージ	
1979	ナショナル・センターからのメッセージ	
1980	ヤヌシュ・ヴァルミンスキ	(俳優／ポーランド)
1981	ナショナル・センターからのメッセージ	
1982	ラーシュ・アフ・マルムボリ	(指揮者／スウェーデン)
1983	アマドゥ・マハタール・ムボウ	(ユネスコ第6代事務局長／セネガル)
1984	ミハイル・ツァレフ	(俳優・演出家／ロシア)
1985	アンドレ＝ルイ・ペリネッティ	(演出家・ITI事務局長／フランス)
1986	ウォーレ・ショインカ	(詩人・劇作家／ナイジェリア)
1987	アントニオ・ガラ	(詩人・劇作家・小説家／スペイン)
1988	ピーター・ブルック	(演出家／イギリス)
1989	マーティン・エスリン	(演劇批評家／イギリス)
1990	キリール・ラヴロフ	(俳優／ロシア)
1991	フェデリコ・マヨール	(ユネスコ第7代事務局長／スペイン)
1992	ジョルジュ・ラヴェリ	(演出家／フランス)
1992	アルトゥーロ・ウスラール＝ピエトリ	(小説家・作家・政治家／ベネズエラ)

1993	エドワード・オールビー	（劇作家／アメリカ）
1994	ヴァーツラフ・ハヴェル	（劇作家・チェコ共和国初代大統領／チェコ）
1995	ウンベルト・オルシーニ	（演出家・劇作家／ベネズエラ）
1996	サーダッラー・ワッヌース	（劇作家／シリア）
1997	キム・ジョンオク	（演出家・劇団自由創立者／韓国）
1998	ユネスコ創設50周年記念メッセージ	
1999	ヴィグディス・フィンボガドゥティル	（アイスランド第4代大統領／アイスランド）
2000	ミシェル・トランブレ	（劇作家・小説家／カナダ）
2001	ヤコボス・カンバネリス	（詩人・小説家・劇作家／ギリシャ）
2002	ギリシュ・カルナド	（劇作家・俳優・映画監督／インド）
2003	タンクレート・ドルスト	（劇作家／ドイツ）
2004	ファティア・エル・アサル	（劇作家／エジプト）
2005	アリアーヌ・ムヌーシュキン	（演出家・太陽劇団創立者／フランス）
2006	ビクトル・ウーゴ・ラスコン・バンダ	（劇作家／メキシコ）
2007	シェイク・スルタン・ビン・モハメッド・アル＝カシミ	（シャルジャ首長・歴史家・劇作家／アラブ首長国連邦）
2008	ロベール・ルパージュ	（演出家・劇作家・俳優／カナダ）
2009	アウグスト・ボアール	（演出家・作家／ブラジル）
2010	ジュディ・デンチ	（俳優／イギリス）
2011	ジェシカ・A・カアゥワ	（劇作家・俳優・演出家／ウガンダ）
2012	ジョン・マルコヴィッチ	（俳優／アメリカ）
2013	ダリオ・フォ	（劇作家・演出家・俳優／イタリア）
2014	ブレット・ベイリー	（劇作家・演出家・デザイナー・インスタレーションアーティスト／南アフリカ）
2015	クシシュトフ・ヴァルリコフスキ	（演出家／ポーランド）
2016	アナトーリー・ワシーリエフ	（演出家／ロシア）
2017	イザベル・ユペール	（俳優／フランス）
2018	ウェレウェレ・リキン	（マルチアーティスト／コートジボワール）
	マヤ・ズビブ	（演出家、パフォーマー、劇作家、ズゥカック劇団共同創設者／レバノン）
	ラム・ゴパール・バジャージ	（演出家、舞台・映画俳優、教育者／インド）
	サイモン・マクバーニー	（俳優、劇作家、脚本家、演出家／イギリス）
	サビーナ・ベルマン	（劇作家・ジャーナリスト／メキシコ）
2019	カルロス・セルドラン	（演出家、劇作家、演劇教育者、大学教授／キューバ）
2020	シャーヒド・ナディーム	（劇作家／パキスタン）
2021	ヘレン・ミレン	（俳優／イギリス）
2022	ピーター・セラーズ	（演出家・フェスティバルディレクター／アメリカ）